

ミーコと ピーちゃんの そら

オマーージュ原作…香寿美 原案&脚本…たっぴー 作画…チャツピー



第1章 とべない わたし

わたしは うまれたときから そらを しらなかった。

はねが あっても、それを ひろげたことは なかった。

カゴの なかで そだった わたしは、そとに できることも なくて、

いつも そらを みあげていたよ。



「そらって、どんな においが するのかな。」

「くもの うえに のったら、ふわふわ するのかな。」

そんなことを かんがえているうちに、

にわに ひかりが さしてきた。

でも、わたしは とばない。

いちども とんだことが ない。

それでも、わたしは きょうも そらを みている。

第2章 さがしてる わたし

おとなって、 なに？

わたしは、 まだ こどもだけど

ときどき おとなに なりたくなくなる。

「みーちゃんは、 おおきくなったら なにに なるの？」

そんなこと きかれるたびに、わたしの ころろは しずかに しずんで
いく。

べつに、 なにも なりたくないわけじゃない。

でも、まだ わからないだけ。

それって いけないこと？

きょうも ひとりで あるいてたら、にわの むこうから、

ちいさな あしおとが きこえた。



「とことこ とことこ」

ふりむくと――

そこに いたのは、

ちいさな ちいさな ことりだった。

第3章 ふたりの そら

「こんにちは」



わたしが こえを かけると、

ことりは すこし くびを かしげた。

「……こんにちは」

ことばが かえってきた。

「とべないの？」

わたしが たずねると、ことりは うなずいた。

「とびかたを しらないの。」

カゴの なかで ずっと くらしてたから。」

「でも、はねは あるよ？」

「うん。 あるだけで、つけたことが ないの。」

わたしは すこし だまって、ことりと いっしょに そらを みあげた。



「わたしもね、まだ なにに なりたいか わからないの」

「みんな すごいのに、 わたしだけ まよってるみたい」

すると、ことりは わらった。

「わたしも まいにち まよってたよ」

「でも、まよったままでも そらは きれいだった」

ふたりで そらを みていたら、
なんだか とっても ころろが かるくなった。

第4章 ぴーちゃんの きもち

わたしは ずっと、とべる じぶんを かくして いきてきた。

「いいの。 べつに。」

「はねなんて あっても なくても。」

そんなふうに わらってた。

でも――

あの おんなのこに あったとき、

わたしの なかで なにかが かわった。

「まよってるのは、 わたしだけ みたい」

その ことばが、

わたしの こころに すーっと はいってきた。

わたしは あのこに なにかを のこしたい。



いいえ、ちがう。

わたしは あのこの ことばに、たしかに すくわれたんだ。

だから――

いちどだけ、

わたしは そらを めざして はばたいてみようとおもう。

第5章 そらの うえで

きょうの ひかりは、 すこし ちがった。

かぜも すこしだけ やさしかった。

わたしは そらを みあげる。

むねの なかで、 なにかが あつく なっていた。

ミーコちゃんは、 ちょっと とおくで、

しゃがんで わたしを みている。

「いち、に、……」



わたしは はねを ひろげた。

とことこ、 ちいさく はしって――

ぴよん。

かぜが、 からだを すくいあげた。

ふわり。



からだが、 ふわりと ういた。

「ぴーちゃん……!!」

ミーコちゃんの こえが きこえる。

わたしは いま、 とんでいる。

たしかに、 いま――



ただ いのちいっぱい
はばたきました

わたしは、 そらの うえに
いる。



<https://youtu.be/RrawnwVhsMQ?si=yY0xEyxDvKtYWSXG8>